

# 文学を取り入れた 文化系フットパス

## 人々を魅了する十勝岳連邦を望む景観

フットパスは多種多様な分野や人とつながりを持つことができます。分かりやすいところでは「自然」「歴史」「食」「景観」などが挙げられます。フットパスのある地域が独自にその町にあった、または本来持っている魅力を存分に高めることができるのです。

北海道のほぼ真ん中に位置する上富良野町は、道内でも有数のフットパス先進地です。十勝岳連峰を望む景観は人々を魅了し、フットパスらしい田畑や森林内の王道スタイル、そして北海道の名付け親と呼ばれる松浦武四郎の通ったルートを再現し、イベントで活用するなど様々な角度からアプローチしています。

メインコースは「千望峠<sup>せんぼう</sup>パス」。景観や自然を余すところなく体感できます。千望峠は十勝岳の大景観が望める場所として、町内でも人気の観光スポットになっています。ここの駐車場を起終点として約10kmのルートです。他にも有名どころの数々の花を望める「フラワーランド」と、その周辺の田園風景を味わえる「フラワーランドパス」、十勝岳の大自然の中の登山道を歩き、運が良ければナキウサギにも出会える「十勝岳パス」、多くの高山植物を楽しめる「佐川道路パス」など10を超えるコースが町内にあります。一つひとつのコースは長くても10kmです。周回のコースもあり、駐車場があるところもほとんどなので、利用しやすいのもうれしい点です。

## 大雪山を周回する「大雪山<sup>だいせつ</sup>ロングトレイル」

さらに上富良野町のフットパス関係者が中心となり、大雪山を周回するルート「大雪山ロングトレイル」も設定しています。町内で完結しがちなフットパスを、さらに周辺の市町村を巻き込んでの活動を展開しているのも特筆すべき点です。新得町や富良野市、上富良



小川 浩一郎 (おがわ こういちろう)

(株)ジオ (THE-O) 代表取締役

1980年札幌市生まれ。2001年エコ・ネットワーク代表代行、13年北海道科学大学客員准教授。札幌市南区常盤で育つ。『フットパス』をキーワードに市内、道内、国内で普及活動、ウォークイベントを実施し、ワールドウォーカーとして世界の「フットパス」を歩いている。「歩く」ことを通じて自然あふれる都市・札幌を観光客へ伝えるべく奮闘中。著書に「北海道フットパスガイド①」「北海道フットパスガイド②」。



迫力ある景観を楽しめる千望峠パス







野町、旭川市などを通ります。2018年現在、数名の完歩者も出ています。旭川空港を起点として、数十日の行程を作ることも可能になってきます。こういったつながりをもったフットパスは、地域をつなぐ補完的な要素としても非常に重要です。

元来フットパスとはひとつの市町村で完結するものではなく、他の地域へとつながるのが自然です。物理的に他地域へつながることによって、地域と地域がつながるだけでなく人と人がつながることにもなります。このロングパス（長距離フットパス）は、歩くことを主体とした様々なつながりが生まれてくるでしょう。実はすでにその効用がはじまっています。

### 文化系の最先端を進む“フットパス”

上富良野町は他地域とは少し異なった点からつながりを生み出しました。それは「文学」です。文学からフットパスにアプローチして、さらに厚みを増したフットパスに進化してきています。『氷点』などが多くの人に知られる三浦綾子さんの文学とつながりを持つフットパスです。三浦綾子さんは北海道を舞台に数々の作品を世に送り出しています。それらの舞台となった地域を通るルートや作品の朗読会など、文化系のフットパスの最先端を進んでいます。

上富良野町はかつて十勝岳の大噴火で数多くの方が亡くなり、それを三浦綾子さんは小説『泥流地帯』で取り上げています。昨年は全国の三浦綾子ファンが集まった一大イベントとして、フットパスツアーが開催されました。上富良野町だけで完結しないのが面白いところで、『氷点』が舞台となった旭川市、『塩狩峠』の和寒町のフットパスも含め3市町が舞台となります。三浦綾子文学記念館の関係者も同行し、小説の中の世界を余すところなく現地ガイドしてもらえるなど、

非常に多くの参加者が集まりました。このフットパス活動が発端となり、映像化されていなかった『泥流地帯』の映画化の話が進んでいるという展開にもつながっています。

こういったようにひとつのフットパスからロングパス（長距離フットパス）へ。それがさらに地域と地域、人と人をつなげ特定のジャンルを先鋭化させたフットパスにつながり、映画化というとてつもないスケールへと大きくつながりました。これもフットパスがなくてはつながれなかったのではないのでしょうか。

### 進化していく上富良野町のフットパス

近年フットパスはテレビのように4K化が進んでいます。「健康」「景観」「活性化」「交流」。それら全てを取り入れた上富良野町のフットパスはより進化していくと思われます。そして4Kから5K、6Kと素晴らしさを積み上げていくことでしょう。

上富良野町は地元のフットパス団体「NPO法人 環境ボランティア野山人」が中心となり、前述のすべての活動が進められています。もちろんルートマップやコースサインも完備されています。全道から数百人のフットパス愛好家が集まる全道フットパスの集いや、日本フットパス協会の全国大会も、上富良野町で開かれた実績があります。さらに面白い試みとして「フットパスエンジェル」と呼ばれるボランティアやガイドもいて、ルートの案内やフットパスを含めた周辺情報なども聞くことができます。これからの時期は、フットパスの最適なシーズンとなるので、是非問い合わせてみてはいかがでしょうか。年に数回大きなイベントも開催していて、それに参加することでさらにフットパスの楽しみを味わうこともできるでしょう。

(NPO法人 環境ボランティア野山人：0167-45-6030)



『泥流地帯』の小説に出てきた道を歩く



全道フットパスの集いでは古民具の館で休憩